

you は yu になったり、u にもなるが、前のスペルに依存する。
you から u は、フィリピン人に多いスラング。
yu や ya もあるが、基本的に文頭の You は基本通りな方が、美しいとされると思われます。

of が a に変わる音は、洋楽でかなりの頻度で多用されていますが、前後のスペルに依存するため、of の時もあるので注意すること。

ing は良く in として省略されますが、Long の g も省略できます。
g の省略は単語のスペルに依存しますので、英単語の発音が正しく聞こえないものは、省略すると該当のない英単語となり、また通じません。

did you は didza になり、聞き取りにくい音に変化します。

should は shld、would は wud、could は culd に省略できますが、否定の時は使えないのと、文頭はやめた方がいいと思います。

are を r にする外国人もいると思いますが、否定の時に使うと変なスペルになり、発音もおかしくなるので注意が必要です。

～ly 系の省略、形容詞の only (本来は副詞)、これはかなり多いようですが、文法的には間違っています。
absolutely のようなよく使われる表現は yes のように使われるため、省略されることはほぼないと思います、定番化された ly の付いたパターンもあるわけです。

Can は Ken になったりする、イギリス人が好む発音ですが、後に m 系の単語が絡むと、Ken は変に聞こえるので、Can で話されると思われます (ケースバイケース)。

about の場合は、bout になったりして、カッコいい発音と勘違いする傾向がまれにあります。

and のような～d の省略は、かなり頻繁に行われているようです、日本人はこの d の発音が大好きなようで、an を見て and が浮かぶ癖がつくと d の音を出す癖は誰でも直ります。

good は gud でも発音はほぼ同じになる。

sports のような sp の音は sb にもなる、例えば hospital は hosbital、タイの人の発音は h を抜くのを好むので、osbital のように話す時もあります。